

モンゴル・ホブド県における地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト（2017年～2024年）



防災を我がこととして「想定外」の災害から守る！

■ 実施団体：
東海国立大学機構 名古屋大学

■ 対象国・地域：
モンゴル国ホブド県

■ 現地カウンターパート
モンゴル非常事態庁
(ホブド非常事態局)
モンゴル国立大学

■ 協力内容：
 - モンゴル初の防災カルタを子供たちと一緒に創作
 - 専門家が災害リスクを住民へ語りかける映像コンテンツを整備
 - 被害軽減ワークショップにより行政・市民の連携体制を構築

■ 団体のこれまでの取り組み：

名古屋大学は全国に先駆けて2002年から地域防災の推進を開始し、2010年には減災連携研究センター、2014年にはその活動拠点として減災館を開設。市民・地域主導の防災実現手法を開発。本事業はその国際展開である。

■ 事業実施の背景：

モンゴル西部地方において、地球環境変動の影響による災害リスクが高まっている。そのため住民が地域に即した災害や防災に関する正しい知識に基づいて、自ら主体的に防災に取り組めるようになるにはどうしたら良いかが国家的課題となっている。



モンゴル国の課題と成果

課題① 「防災」が未だに身近ではないモンゴルにおいて「我がこと」感をいかに醸成するか

成果① ホブドの子供たちと「防災カルタ」を共創し、その魅力がホブド県全域に広まり活用された

課題② 地域防災は行政・地区リーダー・住民がお互いの役割を認識し協働しなければ実現できない

成果② 地区リーダとワークショップを重ね、住民が災害リスクを学び、災害時と平時の行政と住民の役割を確認。ホブド市が防災ボランティア組織を結成

⇒ カルタ作成コンクール応募数：700（ウランバートル分200を含む）

カルタ大会開催：ホブド7回、他モンゴル国内で3回以上

参加総人数：450名以上、ワークショップ参加：延べ750名

県内全校へ配付、学校教諭が県内各地へ出張指導体制継続
教育省が全国教材にすることを検討開始

事業の波及効果



Bosai Card（防災カルタ）がモンゴルに定着！

・日本・モンゴル友好50周年記念カルタ大会は大盛況。詩や絵を好むモンゴル人の心を捉えたBosai Cardは予想以上の好評を博し、一挙に全国的防災教材として展開が期待されている！



モンゴル人の積極性は地域防災の鍵！

・旧社会主义国モンゴルはトップダウン型防災の実効性が高いが、同時に遊牧民ならではの自主性・積極性は防災実現の鍵を握る。モンゴル人の積極性から日本が学ぶことが多い。